



# 池袋駅北口 ≡ 現代的中国

1. 成り立ち  
 チャイナタウンができたきっかけは中国での改革開放運動（1979年）と日本での経済不況がほぼ同時期に起こったことである。また、池袋駅周辺には日本語学校が多数存在し、多くの留学生として来日してきた新華僑たちが池袋駅北口界隈に定住し始めた。

2. 特徴  
 独特な成り立ちを持つ池袋チャイナタウンには他の中華街とは一線を画す街並みが形成されている。一つの店舗で1軒の建物をもつ横浜や神戸とは違い、一棟の雑居ビルの各フロアに様々な業種の店が入っているのが池袋では一般的である。さらに看板が中国語のみ

で書かれているなど日本人がターゲットとしていないところも大きな特徴である。

3. 構成要素  
 調査範囲内で確認できた中国系店の半数以上が料理店であったが他にも不動産、スーパーマーケット、カラオケ店、ネットカフェ、書店・新聞社などが存在した。中国人が日本語を使わず

でも生活のしている環境が整っているといえる。

4. 考察  
 池袋駅北口では現代の中国を体験することができる。そこには中国の様々な民族の人がいて、所得も様々、中国語が飛び交い、きつめの辛料のにおいが漂い、そして治安が悪い。中国の良い面も悪い面もそのまま映し出している。日本でも稀に見るリアルチャイナタウンである。

参考文献：『池袋チャイナタウン 都内最大の中華街の実像に迫る』（山下清海著）

16N1051 工平俊一  
 18U0101 賈宇（カウ）